

喜んで上の者から世話し
て頂けるような氣持と行
爲を示す事が大切である
求めざる幸福を將來せし
むるの第一義は、求むる處
の社會に迎へらるべき等
がない事、その成るも成らぬ
も、實に其の人の志の如何
に在ることを知らなければ
ならぬ

矢野 恒太序 大内民惠著
服部宇之吉序

教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體し
て、學理を實踐し、歴史を實踐さか
ら新に大内案九主義を提唱す。天下
知名の士の賛同致學に違あらず。さ
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年御體験下實地
ノ御試練ニ基キ眞學堂國ノ大精神ヲ拜
味任リ不思感激ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
東京京橋三丁目
取次所 内郷村報社

◎本紙贊助金寄贈名芳
金壹圓 好 岡 西蓮寺 勇
金壹圓 福 島 市川 榮
金貳圓 仙 臺 佐久間政治

第一校々庭土盛工事

第一小學校々庭は地盤低き
爲、衛生上には勿論、運動
上方面より見ても、頗るよ
ろしからざる處から、學區
内の有力家が、より、協
議討究の結果、區民の勞力
奉仕によつて、之が土盛工
事をなし、それに該當する
賃銀は、同校の基本金とす
る案を立て、區内工事委員
會を、前後三回に涉つて開
催の上、其方針を決定して
村當局の承認を得、豫算貳
百四十圓の支出をうけ、出
役一戸當り約三人、其延人
員一千人を以て之に當り、
眞に献身的奉仕によつて、
立派に完成し、一般から深
く感謝されて居る。因みに
其中心となつて盡力したる
は、生田常弘、加藤丈夫、
山崎佐市郎、鈴木佐市、山
下喜代治、生田傳四郎、齋
藤鶴吉、草野末吉、野木力
佐藤三平、吉田伊三郎、菅
波忠治、久野喜平、齋藤彌
平、の諸氏其他十余人であ
つた由。

汽車通學生

本村より平町の各種學校に
汽車で通學する學生は二百
四名で、警中七四、警女八
二、商業二〇、佑賢三、藤
田一一、平陽七、平産三、
にして、徒歩通學者も相當
多數に達して居る由。

磐城青年會町田支部

磐城青年會町田支部では、
四月二十一日午後五時より
内郷山神社境内、花吹雪の
下に於て春季總會を開催、
昨年平太郎及町田支部が合
併して、新町田支部生れ、
更に四月始め竹ノ内に三十
名の新會員を得て、大町田
支部の結成を見、大團結の
祝賀と觀櫻會を兼ね、更に
又後進平太郎町田の兩少年
團に、舊平太郎町田青年會
支部旗の讓渡式を擧ぐる等
盛會有意義のものがあつた
尙新支部旗樹立式も擧行の
筈であつたが、旗の調製が
間に合はなかつたので出来
なかつた。因に當日出席者
は會員百余名、來賓其他四
十余名であつた。

濱崎副所長

二月二十日奇禍に罹り、爾
來療養中であつた同氏は、
順調の経過を辿り、いさゝ

磐城高坂女子青年會

磐城高坂女子青年會は、創
立尚日淺きも、會員百二十
余名に達し、水曜日には佐
藤高坂校長夫人の、池の坊
生花の教授、日曜日には加
美山つね、大友はな兩訓導
の作法其他の教授あり、教
ふる方々も學ぶ人々も、何
れも熱心なるが、見るべき
成績をあげつゝある由。

宮澤少年團

一部二部に分れて居つた同
團は、最近合同して、圓谷
兼廣氏が團長となり、着々
成績を擧げつゝある由。

長倉坑歌

磐城湯の嶺背にうけて
おろす吹雪に身を頼え
日進歩の今の世に
常磐炭田第一を
めざす我等の長倉坑
希望にもゆる我使命
埋もる地中の黒ダイヤ
掘るは我等の目的ぞ
つこめ勵めよ親しめよ
太平洋上雲はれて
日輪天に登るまき
我等のサインハック時
國の寶を掘り出さん
地中の光を世に出さん

炭礦機械會

日本礦山協會主催、常磐炭
礦第四回炭礦機械會は、四
月二十九日天長の佳日を下
り、入山炭礦常務幹事と
なり、淺野翁頌德紀念館に

開催した。此の日常警各炭
礦よりの出席者は一四〇名
あり、因に當日の講師は左
の通り。
東北帝大教授(工博)宮城
晋五郎氏
東京製鋼技師 飯村志郎氏
淺野物産技師 岡精一郎氏
入山炭礦 芦川技師
磐城炭礦技師倉田龜之助氏

役付觀櫻會

平松ケ岡公園觀櫻會の大家
華陣として、例年同地方の
呼物とされて居る、磐城炭
礦役付聯合大觀櫻會は四月
十七日の好天に恵れて舉行
した。此日總勢三百八十餘
名は、正午淺野翁頌德紀念館
に勢揃ひし社設樂隊を先頭
に、正午出發した。觀樂の
前の人々の心はこんなにも
喜戯するものかと思はれる
程「役付聯合觀櫻會」の花
見手拭を頸に結び蛇々長蛇
の列!斯くて公園に至る
や、既に 歡樂のつぼ!
やがて、上原務主任の挨拶
も熱狂の拍子に迎へられ
て、午後一時酒宴に移る。
美妓と三味線!酒!唄!人
をそして花!こゝ第三公園は
將に觀天喜地の觀樂境と化
した。午後三時萬歲聲裡に
無事散會。(高野生記)

警炭視察

縣下各職業紹介所長團一行
の炭礦視察は、四月二十八
日午前九時より上原務主任
任の案内にて、高坂坑々内
外を見學し、正午より綴職
員俱樂部に於て、從業員會
議所の献立料理にて、午餐
を共にし、後炭礦労働者一
般の狀況を知る爲め座談會
を催し、午後二時半散會し
た。

職員異動

從來勞務課採解擔任たりし
樋口平久氏は今般社命によ
り千代田炭礦付き坑監督と

採炭夫募集

- 一、各坑を通じて多數募集す。
- 二、十八歳以上三十五歳以下、身体検査人物考査の上採用す。
- 三、希望者は各坑勞務係及七年會に申込みべし。
- 四、紹介者には薄謝贈呈の規定あり。

昭和十年五月十日
磐城炭礦々業所

東京見學記 (三)

大内一 郎

十一、警炭本社 竹葉
陶々亭 レヴュー

昭和十年一月九日
午前中杉並に、再び姉を訪問、今度は前回の如き失敗を繰り返さなかつた。それから海上ビル新館警炭本社に、兄貴を訪問、前川渡邊岡部各重役を始め、皆様に御挨拶を申し上げ、丸ビルの竹葉で飯を食へ、木挽町南病院の桑野博士に敬意を表し、夕食は代表的支那料理陶々亭でさるべく押しかける。支關に四五人居つて、「いらつしやい」といふや否や、外套と帽子を預り、早速エレベーターにて三階の一室へ案内せらる。一切が支那式調度 支那茶支那饅頭が運ばれ、次々と持つて来る料理は仲々凝つて居る、が然し味は割合にあつさりとしてゐる様に思ふ。定食最低一人前參圓である。三人で九圓、其割がサーブス、ザラト拾圓札一枚である。簡易食堂の一食十錢と比べて、大に勿體ないと思ふ。之が見學だか父はいふ。次に日本劇場で、パンテーンショーのレビューを見る。見物人超満員である。演題はハリウッドパレード二十一景である。頭線美より脚線美に至る迄見た譯だが、誰が始めたものか、よくあれ迄に統制して、一つの見せ物に仕上げたものだが、其点感心?したが、割合流行物で、先が短かいのではないかとも思はれる。何分生れて始めて見るレビューなるが故に、かいかれ分らない。

十二、警視廳 退京
昭和十年一月十日

暫らく振りで雨が降つて居る。退京準備終了後、貸切りで警視廳見學に向ふ、父の知人菊地さんにより先づ敬意を表し、其お計ひにより課長さんの御案内で、廳内を隈なく見せていただく。廳員の方々は誰方も碎けた物腰で、いづれも氣持よく應接もし、説明もしてくれ。人生の表裏を熟知せらるゝ爲か、そこに所謂警察臭味や、官僚氣分は更にないのは感心した。大官暗殺の凶器、生首のアルコール演、各種指紋、老殺殺害事件の寫眞に依る犯人捜査の徑路等をよく説明して下さい。犯人の寫眞が手に入れば、僅か二十分で五百枚の寫眞を作製して、全國に手配出来るといふ物凄い設備には驚く。我國の警察は世界に冠たるもの、

北海道通信 (一)

大内 一 郎

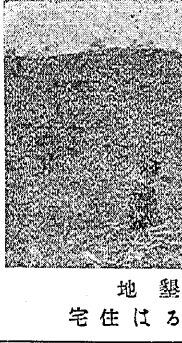
これは四月二十三日附で、妻より通照講の同人である、伊豆田伊藤、吉田、竹内、玉木、村上松本、園分、小林、青木、齋藤佐藤の諸氏に宛てた通信であり出るので、ここに採録した次第であります。(民愚)

は、んたうに御無沙汰いたしました。内地は既に櫻の盛りも過ぎましたでせうね。こちらは萬山之れ枯野原で、地下四寸位迄もまたシシレ(シシレ)は氷つて居る事だ(そう)です。居るので、家に居つた時と同様、輸入にシヤケ

由である。それより父の用件で、上野松坂屋に丹羽人奉課長を訪問し、十一時五十分上野驛發で歸宅したのは午後五時であつた。

十三、結 語

以上で東京見學は終つた譯であるが、一體それによつて何を待たかといふ段になると、これ(こ)ハツキリ結論する事は出来ない。たゞお蔭で、ほんの井底の蛙たる我々兄弟が、大海の一部を知つた様な感に打たれ、特に農村人に對つて、日本の中心地を觀察すること、出来れば、必ずや意義ある活躍が出来ると、農村生活を理解すること、思はれる。都會眩惑と農村眩惑を感ぜぬ農民が、農村に滿つる時、農村は一大飛躍をするのであらうし、萎縮沈滞せる國家も社會も、潑刺明瞭なる生活が出来るのであるまいかと思はれる。



我が家の未築地
内かすかに見ゆる住宅

の御案内で、驛より半里余の清水なる住宅(露殿建設した)に到れば、我々が參ることになるので、大工達は造作をやつて居り、經師屋は張付けをやつて居る。引返す。何しろ三月末であるので、雪解けののちからみこ來て居るので、荷物の運搬も出來る始末、それで八日には漸く二人分の滯留やストロア等を運び、私一人少年が、先づ家にいらり、十日より一週が、私共四人と馬一頭とて、新百姓が始まつたといふ

段取り、けれども荷物は半分も運ぶ事が出来ず、いづれも運送屋に預けておいて、不自由な思ひをして居る状態、同時に家の中も片つかず、それから十日余りの間は、金龜を以て釘を打つたか、棚を吊るさか、經師屋の眞似もするさか、其合間に炊事もやらねばならぬといふ、目のまはる程忙し活動振りです。其上水かはり、男達は又馬屋をつくるやら、境界線の笹刈やりに忙殺され、私も又氣がもめるので、家の附近の笹刈りをやるさか、境界線の笹刈り、焼拂ひの許可書(境界線内の笹を焼き拂つて開拓するのです)を買つて、御近處の方々に手傳つて



火のけつの一隊 (前宅住) 左端みき 右端一郎

頂いて、火をつけたのです。物凄くバチバチと燃え上り、他の山に飛火しては、バケツに水を入れて持ちまはり、鎌で火のまはりの笹を刈つたり警戒したり、モンペに長靴さし、ゴックン、むぐつて歩く、ヘンテコな姿を、一日皆様に目につかたと思ひました。昨夜も火をつけたのです。今朝も、其光景は眞に奇麗でした。今朝も、模様が悪いので、早朝から四人が別れ、あつたので、雨が降り出したので、残念ながら中止したのでしたが、お蔭で此通信を書くことが出来たのです。(以下次號)

内郷村報の

六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其活動の計り、総観和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を図る。
四、村内の善事善行を表彰し、且之を奨励す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘餘力を以て、國民善導に當る。

り又、着い顔をして居り、拂つて研究を續けて居る之れは、私共の、到底企て及ばざる處である。

本紙發行は内郷一隊の事業に於て、其の財源は手塚に對する還言を發するものなり。

の快樂のみであり、如何にすれば早く樂して暮らせるか、名を成されるか、此れ以外には、彼等の

本紙發行は内郷一隊の事業に於て、其の財源は手塚に對する還言を發するものなり。